

## 合 評 會

能瀬久一郎。安田統一。森卯之助。大森無人

### 紹 介

能瀬氏は建築藝術家、西村伊作氏の建築事務所主任である、安田氏は能瀬氏と共に文化住宅研究會同人、森氏は工政建築部編輯に携つてゐる人、大森は本誌社員である。(筆記大森) 筆者曰く、森氏は所用のため缺席。

### 住 宅 と 窓

四方八方の話より自然に入る。

大森 そろそろ筆記ませう。

能瀬 も少し待つて下さい。(笑聲)

問、

能瀬 混凝土の建築は弱々しい感じがしますね。

安田 さうですね。

大森 そしてもろい感じもしますね。

能瀬 いや弱々しいんぢやないですか。

大森 なるほご。

能瀬 丸善の醜體——と云つても何ですが、焼けた後をみますと、スチールサツシュなまが筋のやうになつてゐましたね。

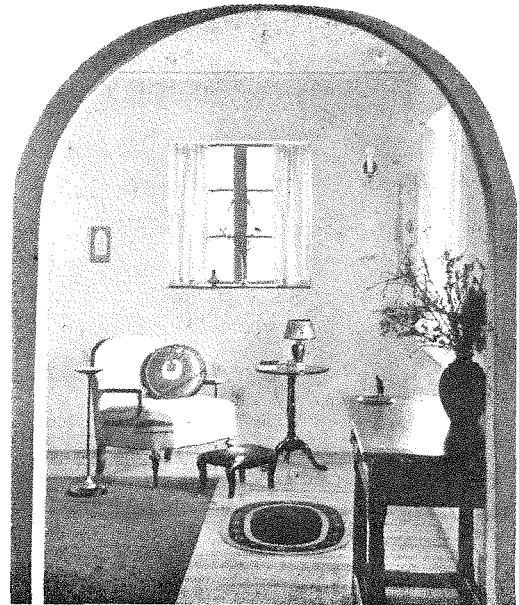
安田 スチールサツシュつてそんなにいゝものではありませんね、見た感じが悪いです。

能瀬 僕は建物云々に依ると思ひますね、例へば混凝土には相應しいが木造には何うかと思ふのです。

安田 然し、木造の住宅に多く使はれてゐる様ぢやないですか。

大森 従來の住宅には不釣合かも知れませんが、木造であつても洋式の外觀の家にはふさはしかないでせうか、尤も本質的にはありませんが——例へばスチールサツシュの質と木造の質との釣合ではなく、外からみた所の機械的な洋式の家に、やはり機械的な窓だから、對外的觀察の持つ象徴がです。

能瀬 あゝつまり外觀の感じがですか、さう



(A) The Application of Fenestra Steel Castments for Residences.

言ふ風ならば相應しいですね。

安田 開き窓は餘りよくはないですね。

能瀬 えゝ、かゞ言つて上下窓も一寸いけませんしね、風をいつぱい入れたい時には、雨の時にはいゝですがね。

安田 戸になつてゐる窓はかなりいゝですね。

能瀬 えゝ、雨が降りこんで一寸困りますがね、外觀などもよかあないですからね。

大森 これはちご特殊な場所によりますが、丸窓は何うでせう、俳味があつていゝものですよ。

能瀬 中から見た所はいゝですがね。

安田 外觀は餘り感心しませんね。

大森 然しね、Kをよく通つた道に鐵道と街道と交叉する所に丘を背にした家があつたのです、そこは木なまが繁つて丸窓が樹間に見えてゐましたが印象的でしたよ。

安田 背景がよかつたんですね。

大森 それに或日その丸窓に美しい女性の三分身を見たのです。(笑聲)

能瀬 それでよくなつたんぢやないですか。

大森 えゝ、それもありますね、いゝ處へま

た美人が出て糸をかけた譯なんです。(笑聲)

間、

大森 かういふ窓は何うでせう。窓の兩端の壁を戸袋にして、しまふやうにしては、

能瀬 え、さうすればかなりいゝですね、N氏の家の窓をさうしましたよ、都合が好いつてましたよ。

安田 さうですか。

能瀬 けれどもいけないところがあるので、それは外觀ですね、何故か云ひますよ、(紙片をこつて鉛筆で圖を書く)かう開けた時はまあいゝとしますね、然しこれを閉めたとてごらんなさい、こする窓の框が眞中は揃ひますが兩端の框の半分位は壁にかくれますね、雨の時は困るからそれを中からみる時はその框の太さが同じだからいゝが、若し外から観た時は中の框が太く兩端が細い變でせう、又かりにかくれる部分だけ太くするご中からみた時に又不釣合でせう。

安田 壁と壁との間を空間にしてその中へ窓の戸を入れるやうにしたらいゝでせう。

大森 え、さつき僕の言つたのもそんな意味だつたんです。

能瀬 さうすれば理想的なのですがね。

安田 上の空気を入れる窓なごは、綱で引張るやうにするのもいゝですが、綱に埃が附いてきたなくなりますね、鐵製の回轉はなほ感じが悪いです。

能瀬 開き窓は雨の時に困るし、閉めて了へば又暑くて困るし……風の時にも困るし……

安田 上下窓は感じが悪いですね、僕は何う

もきらいです。

能瀬 日本の住宅には何うも壁が薄くつて貧弱ですから窓の工夫によつて壁を厚くしなければいけませんね。

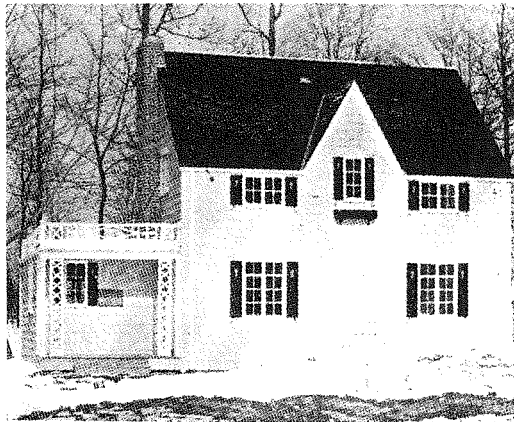
大森 それは窓をよくするために壁を厚くするのはですか、それとも、壁を厚くするために窓を工夫するのはですか。

能瀬 窓をよくするためにですね。

安田 然し日本の住宅にも壁がそんなに厚いところは不要ぢやないでせうか。

能瀬 僕の言ふのは日本の西洋館としてです

安田 あ、さうですか、壁と壁との間へ戸を入れるやうにする窓なら従つて壁が厚くなると思ひます。



(B) フェネストラのサツシュを使った窓

間、

大森 この寫眞にあるこの住宅は何うでせう。

能瀬 Bの方は普通ですが、Cの方のこれは(ご煙突の左の棟をさして)何うもおかしいですね、何もごばかり寄せ棟にしなかつたつていゝでせう。

安田 さうですね、煙突の左(向つて)の方が……

大森 この入口のアーチ型のもつ感じは？なかなかいゝですね。

能、安、え、いゝですね。

大森 Aの方の型は何と云ひますか。

能瀬 日本には餘り類がありません、コロニヤつて云ふんです、悪くすると猫の様だつて言ひます、コロニヤつて猫の泣聲の様ですからね。(笑聲)

安田 窓がひさしにかくれてゐるのは止むを得ないでせうか。

能瀬 え、止むを得ません、日本人の家は

屋根裏を無駄にしていけないです、これの様に(二三の外書を出して)外國の家は屋根裏を高い所まで使つてゐるのです、随つて天井が高くなりますから窓も高くなる譯です、自然、ひさしにかくれる様になります。

安田 日本のほぜいたくなのですね。

能瀬 え、

大森 この家を建て、ふさはしいのは何んな位置がい、でせう、餘程の高地に建つ風格をもつてゐますね。

能瀬 さうですね。

安田 雪がありますね。

大森 北方の地帯らしいですね。

安田 入口のポーチと主屋の屋根は？

能瀬 その重なりですか、これはまづい、です、それがかうなればい、ですよ(鉛筆をこつて紙片に書きながら)かう云ふ風に上と下のひさしの間隔が違へばね。

大森 何んな風にです？(その繪をみて)あ、斯う言ふ工合にですか、つまり上下のひさしが平行してはいけないんですね。

能瀬 え、

安田 Bのこのでばりはわざとらしくないですか。

大森 このバルコンのある所ですか、何だか後でくつつけたと言つた様ですね。

問、

大森 (Aを指して)この窓の内部は何うです

能瀬 い、ですね。

安田 これはい、ですね。

大森 柔かい豊かな感じがしますね。

安田 窓の小さい所がね。

大森 尤もこれがもつと高ければ牢獄の窓のやうになりますね。

能瀬 これ位の高さがい、でせうね。

安田 これより低いとおちつかなくなります

能瀬 こゝから、晴れた夕暮などには西日があかくさしこんだり……

安田 え、

能瀬 そして下の町の凸凹した屋並がみえた

り……

大森 そして時には外の道を誰かゞ流してゆくとセレナーデな音を聞いたり……月夜の晩などにね。(笑聲)

問、

能瀬 高さが中途半端だと變ですが、かなり高いですから、かへつて落ち着いてゐます安、大、え、さうです。

問、

能瀬 さつきの天井裏の話ですか……昔は随分使つたらしいですね、根太を強くして…

大森 何時頃ですか、使つた實證のあるのは？そして形は？……

能瀬 天井を高くしてせう、ですから根太を桁に組んだんですね。一寸調べませう。

能瀬氏書架から一冊の本を取り出す、

大森 その本は？

能瀬 これは(嬉遊笑覽)(きいふせうらん)です。この中の義經記を讀んで見ませう。(古は民家と雖も天井を堅く造りて今の狭きものにては非ずと見ゆ。(義經記)それから(忠信最期の……)

大森 忠信は佐藤三郎兵衛繼信の弟狐忠信のこゝでせうね。

能瀬 さあ、さうでせうね、(忠信最期の條、天井にひたひたに登りてさしのぞき見れば云々)それから(景清双子)に(清水坂にて討手を受けたるころ、暇申してさらばとて天井に上り、はふせき板を……)

大森 はふせきはいふせきと云ふ意味ぢやないですか。

能瀬 さあ、何うですかそんな意味なんでせう……(はふせき板を蹴破りて、家の棟につゝ上りなごみゆ)とある所なきを考へてみるに相當丈夫に作つてあつたものらしいですね。

× × ×

八月二十一日、時まさに十一時武藏野の盛夏の夜は靜かに更け行く



(C)